

目白大学 新聞

第四一号
二〇一六年八月二〇日

The Mejiro University Journal

No.41
August 20, 2016

編集
目白大学社会学部
〒一六一八五三九
新宿区中落合四一三一
TEL
〇三一一五九九六一三三〇



Index

- 2面**
特集
染の小道
学生体験記
第2回フォトコンテスト
 - ・「林美美子記念館」とは？
 - ・新居生まれ「内藤とうがらし」
- 3面**
 - ・卒業生「福祉で働く」
 - ・孤食を考える「こども食堂」
 - ・単館系映画への情熱
 - ・ライトベルから考える日本文化
- 4面**
 - ・「マレーシア臨地研修」
 - ・学生と記者「2つの顔」
 - ・学生のキャンブル中毒



目白大学の近く中井で毎年開催される「染の小道」の催しで妙正寺川に架かる反物

普通の日常がどれだけ幸せか 学生の熊本大地震体験記

社会学部メディア表現学科1年生、横田輝さんはこの春、目白大学に入学した。彼の地元は熊本県菊池郡大津町は、自然が豊かで食べ物も美味しく、とても過ごしやすい町だといふ。彼はこの大震災を身をもって体験、また復興作業にも参加した。

私

は4月14日、大学の講義を終え友人と外で食事をしていた。そこに「緊急地震速報」が店のテレビに流れ、21時26分、熊本地方で地震発生。震度7、M6.5。目を疑った。震源地は益城町、実家のある大津町に近い町だ。まず母親に電話を入れたが、繋がらない。LINEで「大丈夫？」と送ると、すぐに既読になり返事が来た。からすぐに父親とも連絡が取れた。職場にいてなんとか無事だった。

しばらくして母親から写真が送られてきた。10年以上暮らしてきた実家の部屋の中はぐちゃぐちゃだった。食器棚からはグラスや食器が落下し、破片が飛び散っていた。本棚は倒れ本が散らばっていた。やっとな電話が繋がった。「また大きい余震が起きているから、今夜は近所さんと近くの公園で野宿するね」

下宿に帰る途中でテレビを見た。熊本の変り果てた姿を見ていた私はいともたっもいられなくなり、翌日の夕方、熊本に帰ることを決めた。

21時過ぎに熊本空港に着、空気がおどろしい。この時熊本市内では大きな断水や停電もなくお湯も沸かすことができた。明日からは片付けやボランティアで忙しくなるだろう、そう考えながらすぐに眠りについた。

ドンッと突き上がるような揺れで私は飛び起きた。すぐに方々ガタと揺れ出し、一気に信じられないほどの大きな揺れに襲われた。外に出なければならぬ。外に出なければならぬ。布団を頭にかぶり揺れが収まるのを待つしかなかった。本棚、テレビ、食器棚、全てが倒れてくる。揺れはなかなか収まらない。そしてパチンコという音とともに部屋の電気が消えた。その瞬間、気が恐怖が押し寄せた。天井が落ちてくるのではないかと、自分の命の危機を感じた。ようやく揺れがおさまった。手探りで自分の携帯電話を探した。物が散乱する床を



熊本県菊池郡大津町近辺で起こった地震による道路被害

引越した手伝いなど毎日約1週間行った。私にとって全て初めての体験であった。そんな中、はるばる仙台から駆けつけたというサラリーマン男性2人と出会った。

「私たちは東日本大震災の時に、全国の人たちにくさん助けしてもらった。次は俺たちの番だ。恩返しにきた」そういって大量の物資を持って熊本に応援に来たという。

それを聞いた瞬間、私は胸が熱くなった。全国から送られてくる物資のダンボールには「皆さんの暖かいメッセージが書き記されていた。」

「負けるな熊本！」

「また奇麗な熊本の景色をみたい！」

「みんながついてくる！」

現在熊本では、なおも7000人近くの人たちが避難生活を送っている。どんなに時間がかかっても、皆が愛した熊本県を私は取り戻したい。今年夏には帰省し、復興の手伝いをするつもりだ。何不自由ない、ごく普通の日常を送れることがどれだけ幸せでありたいことか。

内閣府特命担当大臣賞を受賞

社会学部社会学科3年生の千葉大祐さんと篠田康太さんが、公益社団法人消費者関連専門家会議（ACAP）の第31回2015年ACAP消費者問題に関する「わたしの提言」で、最優秀作「内閣府特命担当大臣賞」を受賞！

ACAPは、1980（昭和55）年に設立された企業や団体のお客様相談部門の責任者・担当者で構成する組織で、消費者・行政・企業相互の信頼の構築に向けて、各種研修、調査、消費者啓発活動などを行っている。「わたしの提言」の募集は31回目となるが、2015年度は「わたしが考える消費者教育」「減らそう生活のムダ（衣、食、住）」など5つのテーマに関する「わたしの提言」を募集された。千葉さんと篠田さんは、この中から「私が考える消費者教育」をテーマとし、「すくすく」で行う金融教育、中高生への聞き取り調査を「わたしの提言」を提出した。

実は第30回2014年ACAP消費者問題に関する「わたしの提言」募集においても、「学



授賞式での千葉大祐さんと篠田康太さん

生と連携した消費者教育」が必要であると感じ、クレジットカードを使うことやその仕組みやトラブルの対処法を教える疑似体験を提供できる教材として「すくすくゲーム」を提案した。（提言の詳細はACAPホームページで閲覧可）

「すくすくゲーム」を一言で表すと「人生ゲーム」だと千葉

めじろTV 若者向け選挙PR動画制作

社会学部メディア表現学科の西尾ゼミが、さいたま市選挙管理委員会の要請を受け、若者をターゲットとした選挙PR動画を制作した。委員会からは、選挙権が18歳以上に引き下げられることを受けて、「堅苦しくなく、同世代の若者目線から選挙に行こうと思ってもらえるような動画を作してほしい」と依頼され、3本のPR動画を制作した。各動画は約5分、その制作機材はHDK、テレビ埼玉、埼玉新聞など大きく報じられた。

動画のタイトルは「Real me! あなたも素敵な大人に」初めて選挙権を持つ一人の高校生が選挙を体験し、投票するその人のレベルが上がるという分か



選挙PR動画の制作風景

りやすい構成になっている。大人になったら選挙へ行き、自分の意志をきちんと投票すれば、素敵な大人になれるという意味を込めた。第2弾は、「はじめての選挙」投票って意外と方々「私たちが頼むに託す一票」届けようあなたの声（3）本の動画はすべてYoutubeにアップされている。

ゼミ生たちはストーリーを考えたうえで、目白大学のキャンパスや渋谷で若者がアンケートを実施し、若者が持っている選挙のイメージなどを調査した。アンケートの結果を参考にしながら打ち合わせを繰り返して、何度も企画を練り直して作り上げられた。制作するだけでなく、西尾ゼミやさいたま市選挙管理委員会のメンバー

目白大学 新聞

編集長
構松はるか
石崎夏未

編集部
鈴木華奈子
田宮なつみ
額川直哉
岡村直樹
矢島諒一
岩崎寛太
朴承煥

理想のお屋敷? 落ち着く空間「林芙美子記念館」

東

京都新宿区の住宅街に、ひっそりと佇む「林芙美子記念館」。この記念館は、実際に芙美子と夫の緑敏と養子に迎えた泰と芙美子の母のキキと共に暮らしていた家である。1941年の夏に建てられ、8〜9年ほど住んでいた。

林芙美子のプロフィール

芙美子は、1903年12月31日、富田麻太郎、林キキとの間に山口県下関市(自称)で生まれた。幼少期の貧しかった生い立ちから、庶民の生活を背景に描いた作品を多く残している。中でも一番有名なのが、デビュー作となった「放浪記」(1930)である。この小説は、芙美子自身の日記をもとに放浪生活の体験を書き綴ったものとなっており、映画化、舞台化、ドラマ化もされている。他にも「浮雲」(1935)、「めし」(1935)もよく知られている代表作だ。1948年には、「晩菊」という作品で文壇文学者賞を受賞しており、日本を代表する著名な女流作家である。

新居造りの決心

芙美子は、1922年に上京してきた。しばらくは、自分の書いていた小説を売り込みに行



書斎(上)と展示室(下)

くまで多忙な日々を送っていた。そんな中、画家後に夫となる緑敏と出会い、1930年に現在の記念館がある中井に移り住んだ。元々は、島津製作所のテニスコートだったが、土壌が豊かな土地を購入し、新居を建てることを決心した。ずっと貧しい人生を送ってきた芙美子は、まさか自分が家を建てると思っていなかったため、建築についての知識がほとんどなかった。だが、同館のボランティアガイドの西田妙子さんによると、「真面目で努力家で勉強熱心な芙美子は、建築に関する本を約200冊も読んで必死に勉強したのだという。そして、芙美子と緑敏の新居造りが始まったのだ。

新居に隠されたこだわり

芙美子は、新居を建てる上で、暮らしたく、安らぎのあ

なっており、芙美子の身長に合わせて高さに造られている。さらに、これらに加えて強く希望して取り入れたものがある。それは、当時では非常に珍しいと言われている、屋根裏部屋と二段ベッドである。今では、あつた前のものであるが、当時はまだ、記念館に足を運んだ人は、ガイドの説明を聞くと、驚きの声が上がるといふ。また、これら以外にも、家造りにしている中で芙美子と緑敏は「自分たちも何か造りたい」と思い、玄関に敷石を自ら敷いたという。

現在の記念館の様子

現在の記念館は、家具が一部変わっているところがいくつかあるのだが、ほとんどが当時の様子と変わらず大切に保存されている。芙美子は、1951年6月28日に心臓麻痺で47歳という若さで亡くなった。芙美子が亡くなった後も、緑敏は1989年まで暮らしていた。緑敏は芙美子が書いた小説や原稿、日記などを整理し、それらを現在、アトリエで展示しており、貴重な資料を見ることが出来る。季節によって家や庭の雰囲気が変わるため、一年を通して楽しむことができ、何度も訪れる人も少なくない。また、ボランティアガイドの説明もとてもわかりやすく、当時の様子がよく伝わる。是非、実際に足を運んで風情ある家を見てほしい。

(編集部3年 横松はるか)



夫の緑敏名義の棟

新宿生まれの「内藤とうがらし」

新宿区内藤町(現・新宿御苑)養祥の内藤とうがらしは、約40ある江戸東京野菜の一つである。江戸時代には、庶民にこそは文化と共に親しまれ、新宿近郊の多くの農家で栽培されていたが、明治には都市化の流れの中で姿を消した。しかし、2008年に有志の団体が内藤とうがらしを新宿のブランドとして復活させ、注目を集めている。

現

在、多くの人に親しまれている鷹の爪などの唐辛子と違い、八房系である内藤とうがらしの特徴は、芳醇な香りとマイルドで中辛な風味だ。もちろん、一般の唐辛子のように調理して食べることもできる。また、少し変わった楽しみ方ができるのも内藤とうがらしの魅力の一つだ。新宿御苑内の「レストランゆりのき」で、「カフェはなはな」では、とうがらしをイチゴと一緒にバナナアイスに付け合わせたデザート「内藤とうがらしアイス」や、ケーキの生地に入藤とうがらしの粉末を加えた「長々せと内藤とうがらしケー

キー」といった、内藤とうがらしの香りと旨味を生かしたオリジナルメニューを提供している。新宿御苑では毎月、周辺地域の江戸東京野菜と内藤とうがらしを同じく、内藤町発祥の内藤かぼちゃの販売も行っている。インフォメーションセンター前広場では内藤とうがらしの苗が販売されており、これは家庭でも簡単に育てることができる。苗は9月頃に葉、7月頃に青唐辛子、9月〜10月頃には赤唐辛子として、半年以上の間楽しむことが可能だ。

内藤とうがらしプロジェクトの代表である成田重行さんは「新宿は市場として栄えてきたために、地域の生産物がない。内藤とうがらしを通して、新宿という地域の産産を盛り上げていきたい」と話す。成田さんを中心としたプロジェクトは、生産・販売だけでなく、新宿区の企業との商品開発や周辺の教育機関と連携し、文化的普及活動にも力を入れている。昨年はとうがらしサミットとつなぐイベントも開催され、小・高・専門学校・大学の学生にも内藤とうがらしに関するプレゼンテーションが行われた。今年も10月4日(とうがらしの日)に合わせて、10月1日〜10日の間「新宿を真っ赤に」を合言葉に、新宿内藤とうがらし



内藤とうがらしの苗と販売スタッフ

特集 染の小道 Some No Komichi

東京新宿区にある染め物の街、中井。2009年から毎年2月に開催され、多くの人が足を運び、染め物で妙正寺川が鮮やかに彩られる。目白大学が毎年主催する「染の小道」第2回フォトコンテスト、編集部が入選作品から選んだ3枚。

「染の小道」体験記

毎

年2月末の3日間開催される「染の小道」。中井の町が元々染め物の町だったことがきっかけで開催されるようになった。今回は染の小道の実行委員会を手伝う学生ボランティアの一員として参加し、直に目白大学のある町の伝統に触れた。

まず、ボランティアとして川のギャラリーの設置に参加した。巻かれている反物を広げ1枚ずつひねらないように川へ吊るしていく。いくつかのグループに別れ実行委員の方々と一緒にやるのだが、これがかかかなか大変な作業だ。そんな中、道行く地元の人々が「頑張ってるね」「今年も綺麗だね」を声をかけてくれた。地域の人たちも楽しみを感じている行事なのだと思えてきた。作業は40分程で終わり、約300メートルにわたって反物を川に架けた。地域の小学校で制作された物や、大学で制作された物など様々な反物が川を彩る。

ボランティア参加の特典として、着物の無料着付けもしていただいた。これは一般の方も事前予約すれば、500円で当日用意されている。着物と帯の中から自分の好みのものを選ぶことができ、服の上から着付けてもらえる。そのままだ日は返却の時間まで着物姿で染の小道を散策できる。

川のギャラリー以外にも、道のギャラリーがある。中井の商店街に飾られているのれんは一つ一つ違う作家によって作られている。のれんは町中を華やかにし、目を引かれる。色々な場所にあるのれんを目的に町中を歩いているお店にも出会える。この期間の至る所で出店しており、飲食店はもちろん個人の家でも出店している。甘酒や焼きそばなどの食べ物はもちろん、狐の面や下駄、ピースアクセサリなど面白いものがたくさんある。

その中で個人的な家を出店して、お茶と和菓子を出す所を訪ねた。茶道の先生にたてていただいたお茶と一緒に出された和菓子はおいしかった。またその横では、とんぼ玉を売っていた。とんぼ玉の値段も手堅く、デザインもとてもかわいらしいものだ。染の小道は川の近くだけでなく、町全体が楽しい。

今年からは千人染めという企画もあった。土・日曜日に渋谷第五小学校の体育館で開催され、一つの反物に誰か一人の模様を描ける企画だ。できあがったのは毎年染の小道の川のギャラリーで飾られるそうだ。自分の染めた模様を



お茶会を体験する編集部の鈴木さん

川に飾られるいい機会なので、興味のある方は是非参加していただきたい。2017年の開催は、2月24日、25日、26日の3日間だ。(編集部3年 鈴木華奈子)

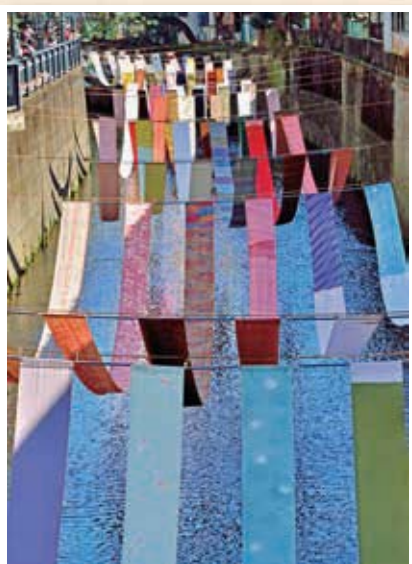
染の小道 フォトコンテスト2016 入賞作品



わ〜キレイ! ●太田洋之さん
川面につるされたたくさんの反物を見て、幼稚園児たちは「わ〜キレイ!」と歓声を上げて暫しの間見とれていました。



楽しいよ! ●石原晶子さん
「千人染め」体験をした我が子。良い顔をしていました。



青空に映えて ●小久保敦央さん
先ず山手通りから妙正寺川を見下ろし、「川のギャラリー」全体を把握してから寺崎橋に降りて撮影。青空が川面に映り込んだ美しさと晴間で明暗差が大きいため友禅や小紋の美しさを如何に引き出すかを考えて写しました。

卒業生からのメッセージ

自分にはしか できない 福祉を

特定非営利活動法人おおぞら会 大石 徹 (人間福祉学科・卒業生)



私

は学生時代、人間学部人間福祉学科の第一期生として福祉を学び、社会福祉士資格を取得しました。学部卒業後、同大学大学院心理学研究科現代心理学専攻に進みました。現在は学生時代に福祉や心理学を学んだことを活かして、江戸川区・葛飾区内で障がい者福祉サービスを主な業務内容とする「特定非営利活動法人おおぞら会」の管理・運営を行いつつ、現場の一職員として働いています。また、福祉現場で働き、日々浮かんでくる疑問点を解消するために仕事を続けながら、他大学の通信課程で精神保健福祉士資格を取得しました。

「今」を頑張っただけ

今後は、具体的などのような方向に進みたいかを考えたとき、地域の福祉に対する取り組みや現状に直面します。それは地域で周囲の理解をなかなか得られず困っている障がい者や家族が多く、家族の高齢化や障がい者自身の判断能力の低下により、必要な支援を受けられず孤立した生活を余儀なくされることなどです。また、精神科病院に何十年と入院を繰り返しているケースも多く、地域でヘルプホームサービス等の受け皿がまだ十分でないと言わざるを得ません。障がいの有無に関わらず、一人ひとりが地域で安心して生活を送れるようにするために自分がかかわりたいサービスを作り出していきたいと考えています。

助け合う心の大切さ

そのような私ですが、学生時代はお世辞にも成績が良かったわけでもありません。勉強もあまり得意ではありませんでしたので、単位も4年間で何とか取得し、卒業することができたのは、当時所属していた研究室の船越知教授やゼミ仲間のおかげだと感じています。その後、すぐに就職ではなく大学院に進みましたが、そこでは学部時代とは異なり、周囲の仲間は年上者ばかりで、周囲の仲間がサポートする環境で所属ゼミ以外の仲間や教授との交流も盛んで、2年間の中で様々な経験をすることができ、自分自身の将来の輪郭をおぼろげながらイメージすることができました。目白大学では、困ったときに助け合う心の大切さ、諦めずに努力を続けていけば結果は後からついてくることを学びました。目白大学に入るまではとてもマイナスイメージで、何か新しいことに挑戦するよりも二の足を踏む



単館系映画への情熱

成28年度社会学部研究教育懇話会パネルトーク「映像コンテンツの現在と今後」が、7月6日、目白大学新館キャンパスで開催された。パネルトークに参加したのは映画監督の矢崎仁司さんと、映画プロデューサーの登山理紗さん。両氏は今年春に公開された映画『無伴奏』を監督、製作していることからパネルトークでもこの映画が話題となり、また映像コンテンツ、とりわけ映画を取り巻く環境の変化についても話が及んだ。

平

が少なく、より収益が期待できるもの」であると登山さんは指摘。大手の映画会社はリスクの製作に集中しているという。映画ビジネスを取り巻く環境も一つ大きな変化は、インターネットによる配信が盛んになってきているという点だ。「日本人は年平均1回しか映画を劇場で観ない。もっと映画館で映画を観て欲しい」と、登山さん。パネルトークには100人以上の学生が参加、矢崎監督はかなるメディアであるとして「誰に伝えたいのか考えれば表現できると思う」と、学生たちにアドバイス。



パネルトークでの矢崎監督(左)と登山プロデューサー(右)

また登山さんは学生へのアドバイスとして、自分は学生時代アルバイトに家庭教師をしていたが、他の仕事もして色々なコネクションをつくるべきだったと振り返る。「コネは自分でつくるもの」と、単にアルバイトをするのではなく、自分の将来

あなたが知らない日本の姿がある

ライトノベルから考える現代日本文化

書

店の一角を占める「マンガっぽい装丁の小説」を、あなたは見たことがあるだろうか。作品の多くは文庫本サイズで、角川スニーカー文庫、富士見ファンタジア文庫、電撃文庫といった専門レーベルから刊行されておられ、表紙に描かれたキャラクターが目を引かれてくる。これらは「ライトノベル」。若い読者をターゲットとしたエンターテインメント小説だ。



ライトノベルを研究する山中講師

大橋崇行 山中智彦 監修
小特集 児童文学とライトノベルのあいだ
インタビュー 十文字青&如月かずさ

ライトノベルフロントライン 2

最新の動向を論じた批評誌『ライトノベル・フロントライン2』がある。そう、この小説はまさに「エンターテインメントの詰め合わせ」いわば「びっくろ」なのだ。一見まじりなく見えるかもしれないが、多面的・複合的な様相こそがライトノベルの真骨頂なのである。こうした戦略性のもとにライトノベルは若い読者の心を掴み、特に2000年代以降、顕著な商業実績を積み重ねてきた。この数年は、やがておさまったものの、2015年の文庫本の最新刊数は年間約2500点にのぼり、市場規模は文庫本市場に匹敵するに近いシェアを持つ(参考:『出版月報』2016年3月号)。出版業界内での関心もいまだに高く、依然として関連するトピ

宇野ゼミ活動報告

孤食について考える「子ども食堂」



子どもたちの貧困の実態をご存知でしょうか。児童虐待が起きている理由として、その中で特に取り上げられるのは「貧困」(経済的困難)です。日本の子どもの貧困は6人に1人と言われています(相対的貧困)。貧困家庭の中には、親に経済的な余裕がなく、心の余裕もなくなっている子どもも少なくありません。子どもに対する適切な養育を行う場合がありま

子ども食堂の現状と課題は残されています。しかし、課題は残されています。そこで、私たち宇野ゼミ3年生も「目白初め目白発」の志を引き継ぎ、学生によるオレンジボン運動を実施します。ただ、オレンジボン運動だけを行うわけではありません。近年、社会的に注目されている「子どもの孤食」も取り上げることにしました。子どもの孤食とは親の経済的事情や家庭環境によって、子どもが一人で食事をすることを指します。この孤食により、情緒不安定や体調不良を引き起こす傾向があると言われています。対策が必要とされています。

この子どもの孤食への対策として、「子ども食堂」が各地で行われています。「子ども食堂」とは、共働きによる両親不在や経済的に厳しくてもともに食事を与えられない等、様々な理由や状態にある子どもたちに対して無料、または低価格で食事を提供する場のことです。また、子ども食堂では栄養管理は勿論のこと、大人で食卓を囲む楽し

また、私たちの活動に協力して下さる方も募集しております。苦しい環境に悩んでいる子どもたちが、少しでも笑顔になれるようにという気持ちからこの計画は動き始めました。ぜひ、応援をよろしくお願い致します。子どもたちに笑顔をお届けしましょう!

(人間学部心理カウンセリング学科3年 市川ゆきな・高松紗帆)



去年の桐和祭でのオレンジリボン運動風景

Report

異文化での心の触れ合い

児童教育学科「マレーシア臨地研修」報告

人間学部児童教育学科の14名の学生(現4年生5名・現3年生9名)が、中山博士教授の引率・指導で、2月28日から12日間、マレーシアのペナンでの臨地研修に取り組んだ。マレーシアで2番目に歴史の古いマレーシア科学大学(国立総合大学)言語学部で英語の特訓を受けた後、現地の小学校、自閉症児童教育センター、老人ホーム、ペナン日本人学校等でボランティア活動を行う臨地研修プログラムだった。中山先生にその模様を報告していただいた。

ナンでは様々な方々との出会い、人の温かさを感じた。今回の研修で見たと聞いたと感動したことを、将来私が教員になつたとき子どもたちに伝えていけるよう自分の中にしっかりと落とし込み、糧にしていきたいと思ひます。

心を動かす出会い

この学生の心を動かしたものは、マレーシアで出会った数多い方々の心の温かさだった。学生21番長い時間をともにしてくれたのは、マレーシア科学大学のバディーのみならず、



マレーシアの民族ダンス、ジョグを小学生や先生方、マレーシア科学大学の学生と楽しむ



ペナン日本人学校でのレクリエーション指導風景

この小学校で、児童教育学科の学生は折り紙や手遊び、節分の日本の伝統行事を児童に体験活動を通じて紹介しました。小学生と学生の笑顔が印象的でした。

異文化の人との交流

日本の折り紙を教え、ハンドゲームを行いました。そして、「ドゥエもん」の歌と「上を向いて歩こう」を歌ったのです。そのあたりから、保護者の表情がほころびてきたのです。きっと、子どもたちの笑顔が、保護者の方々の心をほほえてくれたのでしょう。最後にハンカチ落としを楽しんだのですが、センタリーの教室には、『人の出会い』の素晴らしい話を教えてもらいました。異文化の人たちでも、ここまで仲良く話せることが本当に嬉しかったです。「マレーシアに来た、文化や宗教、人の温かさを、行動や言動の大切さを、様々なことを学ぶことができました。とても楽しかったです。次、マレーシアに来るときは、英語やマレー語をしっかりと身に付けて戻ってきます。」

「来年も、この企画があれば、ぜひぜひ参加させていただきます。ありがとうございます。」



ミンデン・ハイト小学校の関係者と、マレーシア科学大学学生と一緒に

プロの記者と学生

二つの顔を持つ留学生

目白大学社会学部メディア表現学科3年生で、「目白大学新聞」編集部の朴承煥(パク・スンファン)は、韓国からの留学生であるが、同時に日本のプロ野球の記者を本国に送るプロのスポーツ記者でもある。日本に在住する一人の日本野球を専門とする韓国記者であり、韓国最年少のスポーツ記者であったという。彼にそのユニークな経歴とこれまで経緯を書いてもらった。

本への留学を夢見るようになったのは高3年生の時から準備し始めた。両親は貿易会社を経営し、日本への取りも多かったため、私に日本に留学し経営学を学ぶように勧めた。

私は長男であり、父の事業を受け継ぐことになっていました。が、実は私は他の夢がありました。それは幼い時から好きだった野球に対する夢です。日本への留学もはたしてその夢に向けて大きな助けになるのか疑問を抱いていました。

韓国の大学への進学を諦め、留学準備していた日本語の勉強を怠ることはありませんでしたが、野球に対する情熱を放棄することも容易ではなかった。そこで思いついたのが、野球に関するコラムを書くこと。韓国のNAVER(日本のYahooのような韓国人が最も多く利用するサイト)というサイトの個人ブログで野球の試合を分析するコラムを書き始めました。日本語の勉強とコラムを書く仕事を並行し始めた。



実際に使用したプレスパス

努力の結果、このブログは1日に平均3000人、最大6万人がアクセスするブログにまで成長し、次第に父の事業を継ぐための野球記者になりたいという夢が大きくなり始めました。両親は反対しましたが、日本留学とスポーツ記者の夢を実現させるために目白大学社会学部メディア表現学科で勉強すること決めました。その夢を後押ししてくれたのは、NAVERが選定する「パワーブロガー」というタイトルを受賞したこと。また、2011年11月スポーツメディアであるOSENに入社し、韓国最年少スポーツ記者として登録されたこと。加えて、14年にはインチョンアジア大会の韓国記者団の一員に選ばれました。

このようにいわば二重生活には長所も短所もあります。長所は、野球選手たちを直接現場で

目白大学に入学したのは12年、そのころから本格的に日本野球を勉強し始め、学業と記者生活を並行しながら1年生を終えた後、2年間の兵役義務を終え、15年に目白大学に再入学しました。2年間の軍隊生活のために以前活動していたOSEN社を退社し、15年にHERALDというアメリカに本社があるメディア会社に入社し、日本での記者生活を続けています。



朴記者と李大浩選手(福岡ソフトバンクホークス当時撮影)

取材できるという、誰よりも早く社会経験を積めるという点です。一方、毎日試合取材し記事を書かなければならないために個人的な時間を削ることが難しく、日本語の勉強や大学卒業に十分な時間が取れないことがあります。

とはいえ、海外留学生生活しているメリットは特別な留学生活をしていることは短所よりも長所のほうが多いように思ひます。すでに韓国では日本プロ野球についての専門家として評価されている点もありますが、これまでの道のりは決して平坦ではありませんでした。またまだまだ、至らない点もありますが、こうした特別な留学生活をしながら感じたことが一つあります。それは他の人と同じことをするのはダメだということです。自分だけの特別な何かを探し、そのことによって自らの競争力を高め、社会で生き残るようになっていきたいと思います。

(編集部3年 朴承煥)

学生コラム 学生のギャンブル中毒とは?

これから打ちに行こう。この言葉が耳に響く。多くの学生が悩んでいる。ギャンブル中毒とは、何から打ちに行こう。この言葉が耳に響く。多くの学生が悩んでいる。ギャンブル中毒とは、何から打ちに行こう。この言葉が耳に響く。多くの学生が悩んでいる。

ギャンブル依存と学生。なぜ学生はギャンブルにハマってしまうのか。またギャンブル依存にならないようにするために何をすべきか。本記事では、学生がギャンブルにハマる理由、ギャンブル依存の危険性、そしてギャンブルからの脱却方法について詳しく解説します。

ギャンブルは、学生にとって身近な存在です。しかし、ギャンブルにハマると、生活が破綻し、学業も滞ります。本記事では、ギャンブル依存の危険性、そしてギャンブルからの脱却方法について詳しく解説します。

ギャンブルは、学生にとって身近な存在です。しかし、ギャンブルにハマると、生活が破綻し、学業も滞ります。本記事では、ギャンブル依存の危険性、そしてギャンブルからの脱却方法について詳しく解説します。

ギャンブルは、学生にとって身近な存在です。しかし、ギャンブルにハマると、生活が破綻し、学業も滞ります。本記事では、ギャンブル依存の危険性、そしてギャンブルからの脱却方法について詳しく解説します。

(編集部3年 岡村直哉)

東中野

13 ポレポレ東中野

住所：東京都中野区東中野4-4-1 ポレポレ坐ビル地下
TEL：03-3371-0088
営業時間：10:00頃～22:30頃 ※開館時間・閉館時間は上映作品によって異なる
アクセス：JR東中野駅西口北側出口より徒歩1分 / 地下鉄大江戸線A1出口より徒歩1分
HP：http://www.mmjip.or.jp/pole2/



他の劇場では上映していない作品に出会える映画館。



12 THE BAR SMOOTHIES

住所：東京都中野区東中野4-4-26 2F
TEL：03-6908-8538
営業時間：20:00～
定休日：月曜日(祝日の場合翌日)
アクセス：東中野ムーンロード内
中央線東中野駅より徒歩5分
HP：http://moonroad.jp/store/store14.html

窓からは、ムーンロードを見下ろしながら、隠れ家のような雰囲気を味わうことができる。

11 TACCS1179

住所：東京都新宿区上落合1-17-9
TEL：03-3950-5718
アクセス：西武新宿線下落合駅より徒歩2分
HP：http://haikyo.co.jp



様々な劇団が公演を行っている。公演情報はHPまで。

10 Cafe KUUSTA

住所：東京都新宿区上落合1-17-8
もみの樹園1F
TEL：03-3945-5001
営業時間：11:30～20:00
定休日：月曜日
アクセス：西武新宿線下落合駅より徒歩1分
HP：http://kuusta.p-kit.com/

老若男女問わず地元の人々から愛されている、落ち着いた雰囲気のあるカフェ。

下落合



14 セルフキッチン オイスター☆マート

住所：東京都中野区東中野4-9-1 第一元太ビルB1F
TEL：03-6279-3232
営業時間：24時間どの時間帯でもご利用可能
(ただし、事前予約制。通常営業は平日17時～23時30分。
土日祝日は12時～23時30分。現在オイスター☆マートも営業中の為、利用時間に変更あり)
アクセス：JR総武線東中野駅東口より徒歩1分
HP：http://www.self-kitchen.com

キッチン付きレンタルスペースでありながら、今年5月からは同スペースで飲食店も営んでいる。2つの顔を持つこの店のコンセプトは、一貫して安く楽しめる空間作りだ。レンタルスペースはシェアであれば1人30分で300円程度、貸切り予約も受け付けている。飲食店の方では、日替わりでプリ刺しやハマグリのお酒蒸しなどが100円でいただける。100円祭が開催されている。店主の愛川さん曰く「東中野で1番面白い店にしたい!」とのことだ。

中井

1 長寿庵

住所：東京都新宿区中落合1-13
TEL：03-3953-3525
営業時間：11:00～15:30 / 17:30～20:30
定休日：木曜日
アクセス：西武新宿線中井駅より徒歩3分



東京オリンピックが開催された1964年創業の歴史あるお蕎麦屋だ。店内に置かれている石臼で挽いて打たれる二八蕎麦は、爽やかなのどごしで夏にぴったり。店主オススメの天ざる蕎麦をぜひお店で!一品料理や日本酒、焼酎メニューも豊富なので粋に一杯!というのもオススメ!

2 新宿区立 林芙美子記念館

住所：東京都新宿区中井2-20-1
TEL：03-5996-9207
開館時間：10:00～16:30(最終入館 16:00)
休館日：月曜日(月曜日が休日にあたる場合はその翌日)、年末・年始(12月29日～1月3日)
入館料：一般 150円 小・中学生 50円 団体20名以上の場合 一般 80円 小・中学生 30円
アクセス：都営地下鉄大江戸線中井駅より徒歩7分・西武新宿線中井駅より徒歩7分
地下鉄東西線落合駅より徒歩15分
西武バス中井駅より徒歩5分
HP：http://www.regasu-shinjuku.or.jp/rekihaku/fumiko/12/



新宿中井、緑に囲まれた「林芙美子記念館」。『放浪記』『浮雲』といった代表作で有名な作家・林芙美子は、ここ中井の地で後半生を過ごされた。見所は、芙美子の暮らしていた家が、復元ではなく当初のままの形で残っていること。さらに、書斎には執筆のために使用していた原稿用紙やインクなどがあり、実際に見て回ることができる。少し足をのばして、寄り道してはいかがだろうか?

8 PAPABUBBLE

住所：東京都中野区新井1-15-13
TEL：03-5343-1286
営業時間：月～土 / 10:30～21:00
日 / 10:30～19:00
アクセス：西武新宿線新井薬師駅より徒歩10分
中央線より中野駅より徒歩15分
HP：http://www.papabubble.com/



この店は、カラフルで可愛くてポップな飴を販売している。店一番の売りは、目の前で職人が飴を作り、店で作られた飴だけを販売していることである。1日に5～6種類の飴を作っている。一番人気な商品は、フルーツミックス。種類が豊富で様々な味が楽しめる。店主のこだわりは、「飴のツヤ」を出すことで、一つ一つ丁寧に飴を作っている。

落合南長崎

4 豊島区 トキワ荘通りお休み処

住所：東京都豊島区南長崎2-3-2
TEL：03-6674-2518
営業時間：10:00～18:00(最終入館17:30)
休館日：毎週月曜日(祝日の場合は火曜日)
年末年始
アクセス：都営大江戸線落合南長崎駅より徒歩約15分
その他の情報：入館無料
HP：https://www.toshima-mirai.jp/tokiwaso/



マンガを通して平成と昭和を繋ぐ。

5 自性院

住所：東京都新宿区西落合1-11-23
TEL：03-3951-4927
アクセス：都営大江戸線落合南長崎駅より徒歩約6分



歴史の変遷の中に生きてきた猫寺。

6 かざみどり

住所：東京都中野区新井5-12-1
TEL：03-3319-0141
営業時間：7:00-19:00
定休日：火曜日
アクセス：西武新宿線新井薬師駅南口より徒歩5分



「新井薬師駅の元気印」明るくおしゃべり上手なお母さん。リピーターが多く平日休日問わず、毎日客足の途絶えないパン屋だ。

7 梅照院

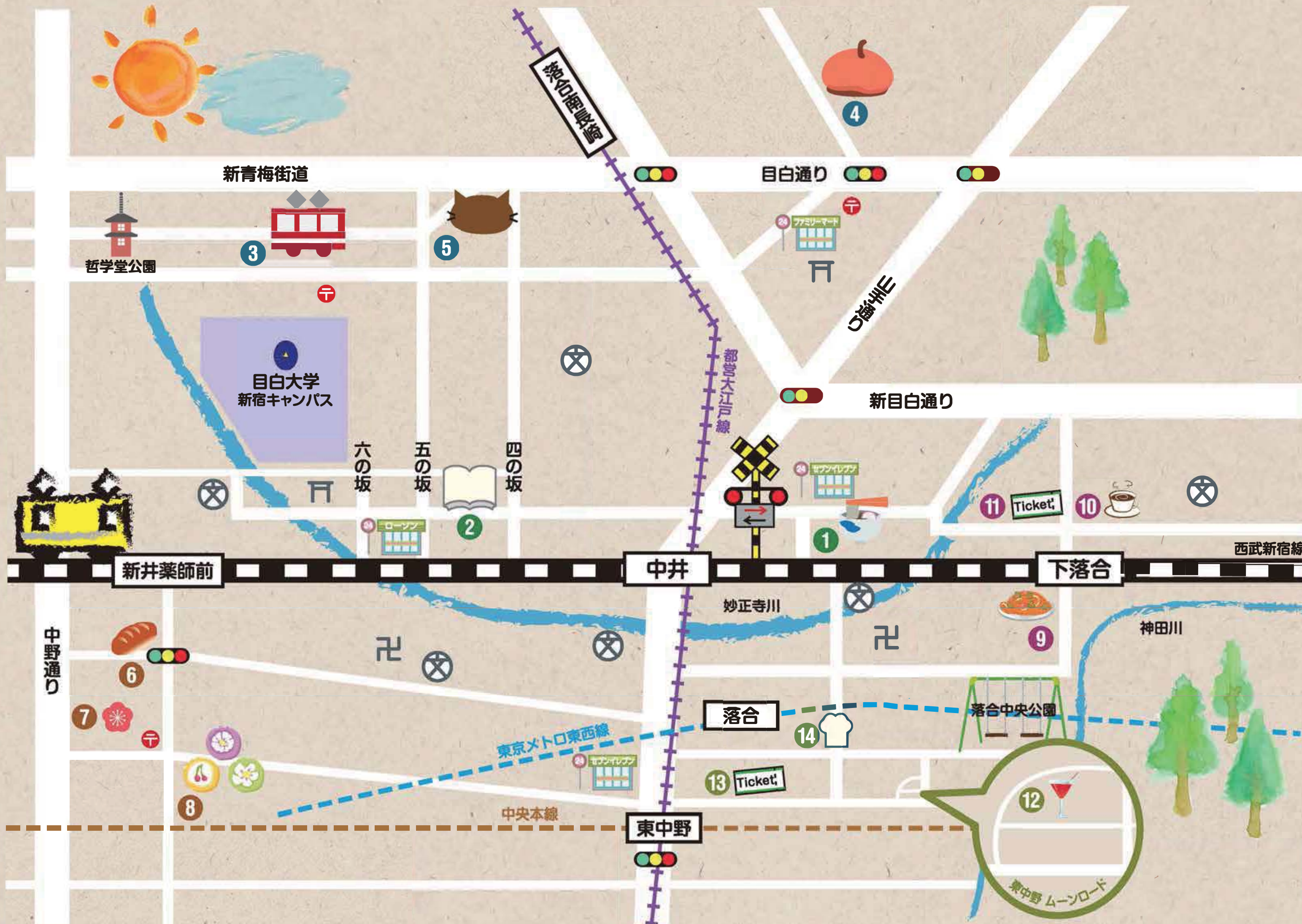
住所：東京都中野区新井5-3-5
TEL：03-3386-1355
参詣時間：9:00～17:00
アクセス：西武新宿線新井薬師前駅より徒歩5分
JR中央線中野駅下車(北口)よりバス5分
関東バス「新井薬師前」「北野神社」より徒歩1分
HP：http://www.araiyakushi.or.jp/index.html



中野区の新井薬師に位置した「梅照院」は都内でも有数の著名寺院である。「目の薬師」としても信仰される寺院。

新井薬師

中井周辺マップ



中井

- ① 長寿庵
- ② 新宿区立 林芙美子記念館

落合南長崎

- ③ ホビーセンターカトー東京店
- ④ 豊島区 トキワ荘通りお休み処
- ⑤ 自性院

新井薬師

- ⑥ かざみどり
- ⑦ 梅照院
- ⑧ PAPA BUBBLE

下落合

- ⑨ BUONO×BUONO
- ⑩ Cafe KUUSTA
- ⑪ TACCS1179

東中野

- ⑫ THE BAR SMOOTHES
- ⑬ ポレポレ東中野
- ⑭ セルフキッチン
オイスター☆マート

